

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	38	学校名	静岡県立駿河総合高等学校	校長名	森 谷 幹 子
------	----	-----	--------------	-----	---------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	多様な学習ニーズに対応した資質・能力の向上と主体的に学ぶ態度の育成	(1) 年間授業時数を、28時間以上を確保する。	(1) 1単位当たり28～30時間の授業を確保できた。	(1) 台風や感染症により授業が実施されない場合もあり、例えば始業式の午後等の活用等も状況によっては検討する必要もある。
		(2) 全ての生徒が全単位の履修と修得を行う。	(2) 補充を要する生徒もいて現在指導中であるが概ね達成可能な見込み。	(2) 欠課補充指導を柔軟に実施できた。産業社会と人間、キャリアアワー等まとめ取り日の欠席については配慮する必要がある。
		(3) 教員アンケートの「主体的に学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの育成に努めている」での肯定的な回答95%以上	(3) 96.5%の教員が肯定的に回答	(3) 来年度は全学年が新教育課程となり継続していく。
		(4) 昨年度よりも支援を拡充する。	(4) 新規にキャリア支援を実施した。	(4) 個別支援の充実をはかりたい。
		「子どもは家庭での学習習慣が身についている。」と答える保護者60%以上	保護者60.8%	希望進路実現に向け、主体的に学習に取り組む習慣が身に付いた。進学希望者は進路実現に向けて着実に、家庭での学習習慣を身につけたと思われる。すべての生徒に生涯自ら学び続ける姿勢を在学中に持たせたい。
		授業に関する図書購入希望調査、図書委員による選書会など教員・生徒の需要を把握する機会を年3回以上実施する。	教員向け希望調査を3回、図書委員による選書会を5回実施した。	図書委員による選書会ではさまざまな分野の図書を補強することができた。文学以外の分野の貸出冊数が伸び、2学期末時点の貸出冊数は過年度の同時期を上回った。
	・観点別評価、授業改善、人権教育等の研修を年2回以上実施する。 ・授業公開週間を年2回以上実施する。 ・生徒と教員が学習端末をよりよく利用するための研修を年1回以上実施する。	観点別評価と授業検討会（11月）、人権教育（5月、10月）、授業公開週（6月、10月）、端末およびロイロノートの利用（4月）に研修を実施した。	A	学習端末を活用する授業は前年度より倍増し、とくに研究授業では顕著だった。

様式第3号

		<p>「本校は、適切な科目選択のために、十分な指導を行っている。」と答える生徒、保護者 90%以上</p>	<p>生徒 89.2% 保護者 93.5%</p>		<p>生徒の進路は多岐にわたるため、より個別に対応した指導が必要である。そのため、多様な情報収集と共有が欠かせない。</p>
		<p>「私は、ICTを活用した授業や学習指導を積極的に行っている」と答える教員 85%以上。</p>	<p>89.9%</p>		<p>ロイロノート・スクールや Google ワークスペースの ICT 研修を行い、教員が授業等で活用する機会が増えた。</p>
イ	<p>品位ある生活態度の育成と自分の意思を表明できる環境づくり</p>	<p>学期に2回以上の報告を行なう。</p>	<p>・成績会議も含めて1・2学期で4回報告した。全般に欠席数が前年度より増加した。</p>	B	<p>欠席数が増加したのは、昨年度までは新型コロナウイルス対応で発熱等による欠席が出席停止扱いであったからである。</p>
		<p>(1) いじめに関するアンケートを学期に1回(年3回)実施する。</p>	<p>(1) 3回実施した。</p>		<p>(1) アンケートの結果、いじめを認定し、適切に対処した。</p>
		<p>(2) 「私は、髪型や服装等を高校生らしく整えている。」答える生徒 100%</p>	<p>(2) 97.9%</p>		<p>(2) 一部生徒の校内外での服装の乱れが見受けられる。注意喚起を継続する。</p>
		<p>(3) 「私は、情報モラルを理解したうえで、適切にケータイ、スマホ、ネット等を利用している。」答える生徒 100%</p>	<p>(3) 99.2%</p>		<p>(3) ネット関連のトラブルの可能性もあるので、ネットリテラシー教室等の実施も必要である。</p>
ウ	<p>計画的なキャリア支援プログラムによる個に応じた適切な進路の実現</p>	<p>(1) 「本校は、各種の進路行事や面談等を通じて進路に関する情報を十分提供している。」と答える生徒、保護者 80%以上</p>	<p>(1) 生徒92.2%、保護者83.8%</p>	A	<p>(1) 校内外の進路ガイダンスを企画・調整し、生徒が上級学校や企業担当者と対話する機会をつくり、家庭内でも共有することができた。次年度は、進路のしおりの内容についてさらに充実させたい。</p>
		<p>(2) 「本校は、生徒一人ひとりに対応した(進路実現に向けた)きめ細やかな進路指導を行っている。」と答える生徒、保護者 70%以上</p>	<p>(2) 生徒88.2%、保護者80.0%</p>		<p>(2) 3年次生には、個別指導担当が進路実現に向けきめ細やかな指導を行い、成果を上げることができた。</p>

様式第3号

		「私は、総合学科と他学科との違いについて理解している」と答える教員80%以上	100%		スクールポリシーに沿いながら、授業や部活動、地域連携活動を通じて総合学科の魅力推進を継続していく。
		(1) 「私は、自分の考えに基づいた科目選択ができている」と答える生徒、保護者が90%以上	(1) 適切な科目選択のために、十分な指導を行っていると回答した生徒94% 子どもの科目選択について家庭で相談し、納得していると回答した保護者が94%		生徒の進路希望を尊重し、科目の見直しも含め、今後も1人1人に応じてきめ細やかな進路指導を行っていく必要がある。
		(2) 「本校は、生徒一人一人に対応したきめ細かな進路指導を行っている」と答える生徒、保護者90%以上	(2) 保護者81%、生徒84%		90%には到達できなかったが、かなり近い数値となつた。今年はコロナ明けで、インターンシップを復活させることができた。多様な進路に対し、進学以外の道筋も示すことができた。
		(3) 「本校は、生徒一人一人に対応したきめ細かな進路指導を行っている」と答える生徒、保護者90%以上。	(3) 生徒90.5%、保護者91.1%		(3) 担任による丁寧な個別相談や三者面談を通して、生徒と保護者と密な情報共有をし一人一人の進路希望に沿った対応ができた。多様な進学先、受験方法に対応した進路課の情報提供や、就職と進学それぞれの進路課担当教員の指導が効果的だった。全職員が大学進学志望者に個別指導（小論文、面接など）の担当に付いたことがきめ細かな指導に繋がった。
エ	保健・安全指導の徹底と体力づくりの強化による心身の調和のとれた育成	・交通事故数年間10件以下 ・イエローチケット指導数年間200件以下 ・交通安全に関する確認テスト1年生全員合格	・交通事故数16件（昨年10件） ・イエローチケット指導数80件（昨年229枚） ・全員合格	B	・イエローチケットは大幅に減少したが、交通事故数は増加してしまった。交通事故ゼロを目指し継続指導を行う。 ・交通マナー、ルールの遵守を引き続行う。
		(1) 朝食摂取率が県平均を上回る。	・6月94.4% 10月95.4% と摂取率が上昇し、県平均95.5%と同程度になった。		-食育講座の実施、生徒保健委員会による啓発活動、さらに、朝食調査後に欠食者への個別指導を実施したことが成果に繋がったと考えられる。今後も継続的に実施していきたい。

様式第3号

		<p>(2) 治療率 60%以上。</p> <p>新体力テスト男女優秀校 (10年連続)</p> <p>・「本校では、生徒が健康で安全な学校生活を送れるように、健康指導、安全指導が適切に行われている。」と答える教員 70%以上 ・各月ごとに活動計画を作成する。</p>	<p>・治療率は 20~30%程度であった。</p> <p>男女とも優秀校 (10年連続)</p> <p>94.9%</p>		<p>・様々な治療勧告に対して個別指導に加え担任から個別面談の際に保護者への連絡協力を求めたが、目標に近づけることはできなかった。次年度は目標設定の再検討をする。</p> <p>男子 9位、女子 8位</p> <p>・学級における健康観察や安全に配慮した教育活動を行っている。 ・教頭が中心となって運動部、文化部とも「部活動ガイドライン」に基づき、計画的かつ効果的な指導を行った。</p>
才	自己肯定感を高め、仲間と共に安心して過ごすことのできる学習環境の整備	<p>・生徒に関する情報交換・ケース会議を積極的に行う。</p>	<p>・保健室と相談室が連携をとり、情報共有した。</p>	A	<p>・相談者や特別支援対象者の情報をその都度、担任や学年、教科や、部活顧問と連携し、時にはケース会議を開き、生徒に必要な支援をした。</p>
		<p>・心の健康アンケートを年2回（6月、11月）実施する。 有意義な学校生活を送っていると答える生徒を増やすとともに悩みを抱えている生徒に対しては面談等のきめ細かな支援を行う。</p>	<p>・年2回実施した心の健康アンケートの「有意義な学校生活を送っている」と答えた生徒は6月 94.5%、11月 94.6%だった。</p>		<p>・心の健康アンケート結果から悩みのある生徒に対して、早期に個別対応をし話を聞くようにした。また必要があればカウンセリングに繋げることが出来た。</p>
力	人権を尊重し、多様性を認め合う共生・共育による豊かな人間性の育成	<p>・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、学校行事、部活動、生徒会活動、授業等における南の丘分校生徒の交流年間 20回以上、他の学校 3回以上</p>	<p>・南の丘との交流 19回、その他の学校 0回(1月末現在)</p>	A	<p>・新型コロナ感染症が5類になり、概ね計画通りの交流を行うことができた。他の学校との交流については内容や実施時期、実施方法の検討が必要である。</p>
		<p>・「私は南の丘分校との共生・共育の意義を理解している。」と答える生徒 90%以上</p>	<p>・85%</p>		<p>・引き続き、年間計画を作成するとともに生徒への意識付けをする。</p>

様式第3号

		<p>「私は、人権意識に配慮し、人権尊重の意識を持って教育活動を行っている。」と答える教員 80%以上</p>	98.3%		<ul style="list-style-type: none"> 人権教育研究チームを中心に校内研修の実施、コンプライアンス委員会で具体的な事例をあげて、生徒への対応や言葉遣い等職員の人権意識の高揚を図った。 校則の見直しを議論等した。
	キ 地域連携を推進し、SDGsを意識した他者との協働による社会への寄与	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県人権教育の手引き「教職員の人権感覚チェックシート」の利用 100% 職員が日常的に自身の人権感覚を振り返ることができるようになる。 	<p>人権感覚チェックシートを前期と後期で実施し、職員の人権感覚の変容を見取るとともに、各自の振り返りを促すことができた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 体罰、ハラスメント、個人情報の取扱いに関する項目で、否定的な回答はなかった。 生徒の意見の尊重に関する項目で、肯定的な回答が 60%強にとどまった。 人権侵害に対する感覚は鋭敏であるものの、より積極的に多様性を尊重し合える機会を充実させたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 「本校はホームページや公開授業を通じて、学校の情報を保護者や地域に積極的に公開している」と答える保護者 80%以上 	<p>保護者 89.6%</p>	B	<p>学校案内だけではなく、ホームページや SNS 等を利用して、本校の特色的な学習内容を発信する機会を増やす必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校HPの更新回数 100回以上 	<p>(1) 62回 (Instagramへの投稿数は、1/22現在で402件。)</p>		<p>(1) (2) ホームページ更新回数は目標達成できなかったが、今年度から始めた Instagramにより、情報公開は積極的に行われた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> (2) 「本校は、ホームページや公開授業等を通じて、学校の情報を保護者や地域に積極的に公開している。」と答える保護者 80%以上 	<p>(2) 89.6%</p>		<ul style="list-style-type: none"> 学校活動（部活動・課題研究等）が多く取り上げられ、地域住民等に理解されているので継続していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> (3) 学校通信2回以上、マスメディア掲載回数 20回件以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信 3回 マスメディア掲載回数 21回 		<p>(1) 8月、10月、11月に保護者、中学生を校内に招き、学校生活を見学していただいた。8月の市内高校説明会、12月の個別相談会も含め、職員が直接、外部の質問に答える機会を得た。ま</p>

様式第3号

					た、地域への広報紙を2回発行した。今後も広報活動の拡充につとめていきたい。
	(2) 意識して紙資源を削減する。	(2) 職員会議や運営委員会は、会議資料のペーパーレス化を実施した。内規集等はPDFで共有している。			(2) 生徒や保護者への配布物についても、ICTを活用する等削減に取り組んでいきたい。
	・研究発表や交流活動等に積極的に参加する生徒30人以上 ・先進的実践の情報収集中に臨む職員（延）10人以上	・進路指導課、3年次部職員をはじめ、10名以上が志望理由書・小論文のガイダンス（オンライン講座含む）を受講した。 ・研究発表や交流活動等に積極的に参加する生徒30人以上。			・研究発表、交流活動等に参加する生徒が年々増えているため継続していきたい。 先進的実践の情報収集中に臨む教員の数を増やし、同時に支援策を考え実践していく。 ・総合・学校推薦型選抜の志望理由書・小論文の指導力向上につながる研修をさらに充実させたい。
	(1) P T A 総会・学年別保護者会の参加率併せて60%以上	PTA 総会出席率43%、学年保護者会参加率72%			4年ぶりにPTA総会が開催された。学年別保護者会への参加率は高く、来年度からは学校行事としての扱いとなる方向である。
	(2) 地域防災訓練参加率60%以上	地域防災訓練参加率27%			地域防災訓練は地域によっては訓練が実施されなかった。生徒・職員の防災への関心は高まっているので、9月の総合防災訓練への参加も推進していきたい。
ク	生徒の学びを支える事務運営の効率化、円滑化と教育環境の充実	・監査での指摘0件 ・時間外勤務月平均20時間以下 ・要求調書を活用した効果的な予算執行の実現	○監査指摘件数、時間外勤務の目標は達成できた。 ○予算執行についても、概ね計画的に執行できた。	A	・今後も適正な事務執行に努め、教育環境の充実を図っていく。
		・iPad・ノートPC等ICT機器の状態やネットワーク接続状態の確認を月1回以上	月1回以上の確認はできた。		ミラーリングの不具合やネットワークの接続が不安定な時があるが、その都度対応できることは素早く行いたい。
		生徒のメール登録90%、メール配信50回以上	・生徒のメール登録96% ・メール配信125回		メール配信による連絡はとても活用されているが、来年度からはCラーニングを活用していく方向である。

様式第3号

ケ	業務の効率化による生徒との対話時間確保と職員のワークライフバランスの実現	利用する教員 50%以上	全体では 70%、5教科では 90%の教員が利用	B	採点業務の大幅な時間削減となった。答案の WEB 配信も状況によっては利用方法を周知させていきたい。
	職員の定時退勤の推進とめりはりの実現		私は自宅に持ち帰る仕事が多いと答えた教員 37.3%		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインを遵守し、一定の適切な休養日を設け、指導する側の計画的かつ効果的な指導方法への改善を促す。 ・県からの通知に基づき生徒の完全下校時間を設定した。